

平成 28 年度(2016 年度) 第 1 回とよなか都市創造研究所運営委員会  
議事要旨

日 時 : 平成 28 年(2016 年) 6 月 29 日(水) 18 時 00 分 ~ 20 時 00 分  
場 所 : くらしかん 3 階 会議室  
出席委員 : 赤尾委員、肥塚委員、砂原委員、泉委員、長濱委員  
事務局 : 足立、福山、泉、大平、熊本、比嘉、玉富、仲谷  
傍 聴 : 0 人

開会

案件(1)平成 27 年度(2015 年度)事業報告について

資料 : 資料 1「平成 27 年度(2015 年度)事業報告」  
資料 2「平成 28 年度(2016 年度)事業計画(修正版)」  
資料 3「平成 27 年度第 3 回運営委員会議事要旨」

事務局から資料に基づき説明があった。前回いただいた意見への回答について、補足があった。  
以下、主な質疑応答をまとめる。

- ・委員 : 事業報告には、個々の出張にいくら使ったかなどの収支は書かないのか。
- ・事務局 : 事業報告では、細かい収支までは記述しない。市の決算では費目ごとに合計を出している。
- ・委員 : 資料 1「自治体シンクタンク情報交流会」は「自治体シンクタンク研究交流会議」に訂正。

案件(2)平成 28 年度(2016 年度)調査研究について

資料 : 資料 4「平成 28 年度(2016 年度)調査研究について」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる。

「公共データの活用のあり方に関する調査研究」

- ・委員 : どのようなデータを対象としているのか。公開するとしたら、市民意識調査の個票レベルになると思うが、個人情報保護についてはどう考えているのか。
- ・事務局 : 意識調査の他、人口関係、地図情報などを想定している。情報保護の問題も研究会で検討していく。
- ・委員 : 他にも入手できるデータを公開しても仕方がない。意識調査などの生データを公開し、分析してもらえるようにするにはどうすればいいのか、などを考えてはどうか。

数字だけでなく、決裁文書など意思決定プロセスを公開し、他の人に検証してもらうというやり方もある。

- ・委員：先進都市には、例えばアイデアソンといったイベントで、民間にオープンデータを提供して活用方法を考えてもらうという事例もある。検討してはどうか。
- ・委員：グループ研究の参加者は主に若手職員を対象としているようだが、若手とはどの範囲を指しているのか。
- ・事務局：在職10年未満、係長級以下を想定して、上司に推薦してもらっている。

#### 「南部地域の活性化に向けた調査研究」

- ・委員：新たな価値の提案とは、具体的にどのようにするのか。
- ・事務局：今年度は南部地域のあり方として大まかな方向性を描き、来年度に絞り込む。若い世代を呼び込むにはどうしたらいいか、とういことを考えていく。
- ・委員：NPOでは、活動や実践を通じて価値を見出していくが、研究で提案すると、それはどこへつながるのか。
- ・事務局：研究所は内部シンクタンクなので、その提案は企画につながっていく。
- ・委員：子育て世代の生活シーンに焦点を当てているのだと思うが、そこに住んではいない大学生を対象にするというのは、音大を意識しすぎているのか。
- ・事務局：最終的に増やしたいのは子育て世代。南部は子育て世代に人気がなく、子どもができると出て行ってしまうので、子育ての直前の世代も含めて聞くという意図がある。
- ・委員：質問紙で漠然と聞くと総花的になる。自治体としてできることは限られているので、できることの選択肢の中で聞いてはどうか。フォーカスを絞り、子育て世代へのグループインタビューで聞くと有益な情報が得られるのでは。
- ・事務局：防犯、面的整備、産業誘致、教育関係などは市が提供しやすい。質問紙の設計時に検討する。
- ・委員：南部の人口増のための調査であると全面に出し、市が考えている施策に対して市民の意見がほしいというシナリオを明確にしてはどうか。

#### 「地域経済構造分析に関する調査研究」

- ・委員：課題は何なのかわかりにくい。地域経済構造を分析して最終的に何をしたいのか。空港や道路をつくる前に経済波及効果を調べるならわかるが、既にある物の経済波及効果を今さら調べてどうするのか。目的を明確に記述してほしい。
- ・事務局：空港に長距離便を増やしたらどうなるか、道路を延伸したらどうなるか、などのポテンシャルを探る。

案件（３）平成 28 年度（2016 年度）機関誌について

資料：資料 5「機関誌「TOYONAKA ビジョン 22 vol.20」企画案」

事務局から資料に基づき説明があった。以下、質疑応答をまとめる。

- ・委員：機関誌刊行の目的に「市民の認識を深める」とあるが、広く市民に届くようにホームページ上で公開してはどうか。
- ・事務局：著作権の問題で、著者の了解が必要。検討する。

案件（４）その他：事務連絡

研究成果の政策等への反映について

資料：資料 6「これまでの研究と施策や計画策定等への反映について」

事務局から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる

- ・委員：このように表にまとめられると納得感がある。
- ・委員：収支は出せなくても、仮に調査を外部委託した場合の費用などを算出してもいいのでは。委託より費用が抑えられることや、原課のニーズに対応できるのも内部シンクタンクとしてのあり方。同時に、研究所独自の将来的な展望も必要。
- ・委員：シンクタンクとしては先進的で長い歴史があるので、どこかで区切りをつけて振り返りと今後の方向、中長期的な研究所のあり方についてまとめてみてはどうか。

（仮称）とよなか大学院について

資料：資料 7「（仮称）とよなか大学院について」

生涯学習課から資料に基づき説明があった。説明内容は略。以下、質疑応答をまとめる。

- ・委員：どのくらいの頻度で開催するのか。受講のメリットは何か。
- ・事務局：月 2 回くらいを想定しているが、市民が参加しにくいようであれば変更する。メリットとしては、受講者自身の仕事につながればよいと思っている。
- ・委員：なぜここで大学院の話の説明するのか。研究所が共同運営するということか。これまで運営委員会で何も報告はなかったが。
- ・事務局：事業計画の中には入っていなかった。生涯教育の一つとして生涯学習課が担当しているが、一つの課だけでは難しいということで研究所が協力することになった。まだ研究所の所掌事務にも位置付けられていない段階だが、まずは運営委員の方々にご報告している。

## 事務連絡

- ・平成 28 年度第 2 回運営委員会は、10 月頃に開催予定。

閉会